

H28.10.24 稲梓中学校学区説明会 概要

日 時 平成 28 年 10 月 24 日（月）午後 7 時から午後 8 時 40 分

場 所 下田市立稲梓小学校体育館

出席者 保護者：26 人

市教委：佐々木教育長、峯岸課長、山梨参事、吉田係長、土屋指導主事、土屋技師、原主事

1 開 会

<係 長>

皆様、こんばんは。ただ今から下田市総合教育会議報告書稲梓中学校学区説明会を開会します。私は下田市教育委員会学校教育課学校教育係長の吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。初めに教育委員会側出席者の紹介をさせていただきます。

— 市教委側 自己紹介 —

それでは、続きまして佐々木教育長より挨拶を申し上げます。

2 教育長挨拶

<教育 長>

皆様、こんばんは。大変お忙しい中、中学校再編に係る説明会にご出席いただきましてありがとうございます。ごぞいます。

はじめに日程が変更になり、ご迷惑をおかけしましたことにつきましてお詫び申し上げます。

この説明会の趣旨でございますが、下田市総合教育会議で検討・協議した内容について説明させていただきます。保護者の皆様からのご意見をお伺いしたく、開催させていただきました。今日を皮切りに中学校学区単位に開催させていただきます。

私からは、今日に至るまでの経緯を簡単に説明させていただきます。

4 中学校の再編整備につきましては、ご承知のように、平成 19 年の稲梓中学校と稲生沢中学校の学校統合に向けて取り組みましたが、平成 21 年に皆さんの同意が得られず見送って参りました。

以後 7 年以上が経過し、少子化も更に進行している状況から、再度、新たに学校等再編整備審議会に諮問させていただき、平成 27 年 3 月に答申が出されました。

その答申内容の要旨は「将来的には中学校一つということも、視野に入れて再編を考えていくべきと思われる。その第一段階として稲梓中学校と稲生沢中学校を統合し新たな中学校を構築すべきである。また、下田東中学校が単学級になった場合は下田中学校との推進をしていく。」との答申が出されました。

その答申を受け、4 校を一校化で進めていくかについて、総合教育会議におきまして、生徒数の推移と準備期間の必要性を検討しながら、平成 28 年 1 月に保護者及び先生を対象にアンケート調査をお願いし、その分析をしながら慎重に検討してきました。平成 28 年 7 月に市長が交代し、新市長の考えも踏まえ、定例の教育委員会、総合教育会議で方向性を協議、調整しました。

その結果を踏まえ、8 月 26 日臨時の記者会見で市長より一校化で進め、そして候補地として、

稲生沢中か下田中として方向性を決定しました。また、9月の議会の全員協議会にも報告させていただきました。

そして、10月11日には、第1回の「中学校再編検討会議」を開催させていただきました。メンバーにつきましては11校の校長先生及びPTA会長様、市内6地区の区長会長様にご参加いただき、会議の検討事項につきましては、1校化に伴う課題や下田中、稲生沢中の候補地についての意見聴取をさせていただき予定をしており、今後、再編の方向性を見出していきたいと考えております。また、10月17日には市長と語る会も稲梓地区にて開催させていただき、地域の人たちのご意見を伺わせていただきました。

本日は、この後、担当より再編に関する細かな説明をさせていただきますので、忌憚のないご意見をいただければと思っております。

最後になりますが、教育委員会としまして、下田市の子ども達の未来に向けて「子どもにとって、より良い学習環境創り」をしていきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

3 報告書概要説明

<係長>

ありがとうございました。それでは早速、報告書の概要説明に入らせていただきます。

<事務局>

— 報告書概要説明 —

4 質疑

<係長>

それでは質疑に入らせていただきます。いろいろなご意見を伺わせていただきたいと思いますので、ぜひともご発言いただきますようよろしくお願いします。ご意見のある方は、挙手をお願いします。

<保護者(男性)>

近い将来、少人数による教育課題が生じる可能性があるかと記載されていますが、教育委員会として少人数による教育について、どのような部分に支障があると判断していますか。

<課長>

少人数によるデメリットにつきましては、本日配布させていただいた説明資料32ページをお願いしたいのですが、小規模化のメリット・デメリットをまとめさせていただいております。その中に、集団の中で多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすいとありますが、やはり競争という部分がなくなってしまうと考えております。教育委員の方もよくおっしゃっているのですが、少ないクラスの場合、小学校1年生から中学校3年生まで同じクラスメイトでいきますとクラスの中である程度、形が決まってしまう、例えば運動が得意な子はこの子、勉強のできる子はこの子などとなってしまう、競争することがなくなってしまう。大きな学校になりますと、そこで競争、またクラス替えなどができるため、中学を卒業し、その後の高校や大学、社会に出たときに相当な影響は少なからずあるだろうとおっしゃっておりました。また、学校の先生がおっしゃっていたことなのですが、1クラスだけだとクラス対抗ができなく、何か競技を行うときに少ないクラスを2つに分けたとしても、競争が成り立たず、先生自身がどちらを応援したら良いかわからないとも、おっしゃっておりました。確かに、小規模であれば一人ひとりに

目が届きやすく、きめ細かな指導ができるというメリットはありますが、競争という面では教育委員会としては懸念があるだろうと考えております。

<保護者(男性)>

小規模校で卒業した子たちが、進学率が悪いとか、テストの数値が低いとか、そういった結果が出ていますか。自分の子を小規模校に預けており、将来、高校、大学へ進学することが難しくなるなど、少し心配もあるため、伺わせていただきたい。

<教育長>

申し訳ございませんが、数値的なものはありません。中学校から高校への進学率は90%を超えておりますが、例えば、小規模校の生徒が低いとか、標準校の子が低いとかということはありません。それは本人が次の高校へ行って学びたい、もっと力をつけて次の大学とか専門学校へのステップに進みたいという部分が大切だと思われまます。また一方、勉強ではなく手に職をつけて仕事をしたいなど、事例は様々あります。賀茂地域においては、ご承知のとおり、高校は3校あり、おおよそ子どもの数と高校の定員は賀茂地域の中でバランスが取れており、数値的にも表れております。結論としましては、学校の大小で成績の差が出るということはないと判断しております。

<保護者(女性)>

保護者の方のアンケート結果の稲梓中学の回答率の高さを見ると、この再編に関し、自分たちの意見などを反映させたいという気持ちの現れが出ていると思われまます。実際に稲梓中学に通っている生徒から、運動会の種目が少ないから何もできないとか、部活の選択内容もこれしかないからできないなどの話を聞きます。実際に通学している子どもたちが感じることは、たくさんあると思われまますが、これまでに中学に通学している子どもたちからのアンケートを行ったことはありますか。

<参 事>

学校再編に関する子どもたちのアンケートを行ったことはあります。生徒の回答内容も今発言された部分の意見が多かったと認識しております。小規模校のメリットというのは確かにあると思われまます。小規模だからこそできることがたくさんあると思われまますが、やはり中学校という発達段階を考えたときに、先ほどの運動会の種目が少ないことや人数が少ないために何回も何回も出番がきて出場していたり、部活動においても具体的な話ですと女子バレーも組めない状況となっております。前回の学校再編の際に、稲生沢中学と合同で部活動を行ったこともありましたが、結果的に距離的なものもあって、途中までは行っていたがうまくいかなかったこともありまます。先ほど担当からもメリット・デメリットの内容を説明しましたが、確かに小規模の良いところはたくさんあります。しかし、課長からも競争力というお話をさせていただきましたが、運動会であるとか様々な行事であるとか、特に部活動、中学時代の部活動というのは、これからの人生を送る上で、非常に大きな経験になる部分だと認識しております。教育委員会としては、子どもたちに少しでも多くのチャンスを与えてあげたいという視点に立ちまますと、メリット・デメリット双方あるのですが、やはり適正規模の環境を整えてあげたいと考えております。

<課 長>

資料2 ページに平成27年3月に再編整備審議会から答申を受けておりますが、その答申を検討する際に子どもたちを対象としましたアンケート調査を実施しました。その中で興味深かった結果があります。生徒に対して再編に賛成か反対かを聞いた設問で、子どもたちは今の環境を崩したくないという理由などで全体として反対の意見が多かったのですが、その割合が1年生は8割から9割、2年生は5割から6割、3年生は3割くらいまで減っているという結果で、3年生の意見とし

ましては、統合したほうが良いのではないかという意見も頂きました。1年生は仲の良い子とそのままいたいという理由で割合が高かったのが、3年生になるとこれまでの学校生活の中で、先ほどのデメリットにもある通り、部活ができないなど様々な経験を通じて、再編に反対という意見が減ったのではないかと考えております。

<教育長>

先ほど運動会の話が出ましたが、教育長として、昨年から4中学校の運動会を拝見させていただいております。稲梓中など小規模校の子どもたちは本当に一生懸命に頑張っております。一方、下田中など大きな規模の子どもたちはクラス対抗などの競争、クラスを勝たせようとか、勝った時の喜び方とか、自分の印象でしかないのですが、表情とかにしてもやはり大きな規模の中で切磋琢磨しながら、子どもたちがいろいろな経験をしながら育っていくことができるのかなと感じました。また、部活動についても下田中は吹奏楽部や美術部などがありますが、少し運動が苦手な子につきましても、人数が多くなると部活の選択もできるようになります。教育委員会として、今考えているのは、子どもたちにとって、何が一番良い環境であるのかを基本に、今回出させていただいた方針を基に本日の説明会を開催させていただいております。

<保護者(男性)>

部活の話が出ましたが、新中学校において、部活などは何時から始まり、何時くらいに終わるのかなど、家までの移動距離が長くなるので、逆に部活の時間が短縮されないのかなど、検討をお願いしたい。それから下田市の人口問題になりますが、様々な政策を立てて、人口が増えると想定されていますか。例えば、外から人を呼ぶとなると環境というものが大切であり、地域の近くに学校がないとやはり移住する人はいないと思いますし、学校がなくなるともっと人口が減っていき、稲梓地区に定住する人がいなくなるんじゃないかという心配があります。例えば、今後、人口が増えた場合には学校を増やすことなどができますか。もしくは人口は減少していくと想定しているのかどうか伺わせていただきたい。

<教育長>

部活動の時間については、現時点ではそこまで細かい時間設定はできておりません。しかし、当然距離によって、また季節によっても、今でも学校ごとに違う時間が設定されております。冬の時間を考えますとほとんどの学校で部活動ができない状態の下校時間となってしまいますが、そういった部分は朝の時間を有効活用するなど、子どもたちが少しでも部活の時間を確保できるようにしています。また、帰る時間についても一校化となった場合、当然、通学する時間が長くなるため、朝の時間も含めて検討をしていきたいと思っております。

<課長>

人口のお話ですが、本日は資料を持ってきておりませんが、人口減少についてはかなり厳しい状況になると考えております。これは下田だけの問題だけでなく、全国で抱えている問題でもあります。地域に産業がないと、言い換えれば働く場がないと人が集まってきません。そういったものを下田市で取りまとめた将来人口ビジョンがあるのですが、本日は資料がないため、具体的な数値を言うことはできませんが、かなり厳しいという状況になると教育委員会として認識しております。人口が増えるという部分では、東京都足立区で人口増加をしている地域があり、学校なども新たに建設しているという事例もありますが、下田市においては、人口は減少していくものと認識しております。

<保護者(男性)>

先ほど少人数で競争ができないという話がありましたが、今後、4校を一校化した場合、部活動や学校活動的なものの市内での競争ができなくなると思います。姪が稲梓中に通っているのですが、下田中の生徒たちが稲梓中の掃除がすごく良いということで、見に来たという話を聞きましたが、それは下田市内の中学校での競争だと考えております。部活動についても、指導する機会がありまして、下田中のバスケ部の子どもたちを見させてもらっているのですが、それに関しても下田東中には負けたくない、稲生沢中には負けたくないという話を良く聞きます。一校化になるとそういった市内での競争というものがなくなってしまうと思います。だからといって、稲梓中学校がこのままで良いというわけではありませんが、人数が少ないから一校化というのもわかりますが、市内での競争という部分がなくなるということについても検討をしていただきたい。

<参 事>

確かにその通りであると感じるところはあります。掃除につきましては、稲梓中は本当にどこの中学校から見ても、お手本となる素晴らしいものがあります。中学校だけでなく、中学生になったらこんなことまでできるんだという小中の交流も行っていると思います。そのような素晴らしい伝統があるということはこちらも認識しております。一校化になったとしても、こういった良いものを引き続き、伝統として残せるようにしていきたいと考えております。部活動についても、全くその通りだと感じております。確かに4つが1つになったら、市内には競争相手がなくなります。しかしながら、これからの下田市の人口や規模を考慮しますとやはり1校が適正な規模であるという部分もあります。市内には中学はなくなりますが、近隣市町の中学はあり、これまでは市内で競争していたものを賀茂地域という視点で、これまでの関わり方ができるようにしていきたいと考えております。また現在、教育全体において、賀茂の広域連携ということで盛んに様々な協議を行っております。そういった部分でも賀茂地域の中学校での競争、さらには賀茂地域を超えた競争など、今後十分に検討することができるかと考えております。

<教育長>

市内のそういった競争についてもいろいろと考えさせていただきました。ただ、人口が減少してきている中で、ある学校ではバスケができて、ある学校ではできないなどという人数のバランスというのは非常に難しく、例えば、ある程度大きな学校になれば、今までは賀茂で終わっていたものが、東部大会、県大会あるいはその上を目指すという目標を持つことによって、子どもたちの励みにもなるのではないかと考えております。掃除についても、素晴らしい伝統というものを一校化となった場合にも新たな伝統として残していきたいと考えております。

<保護者(女性)>

再編はいつ頃を目途に考えておられるのかということと、通学という部分で公共交通機関だと1時間に1本しかない状況であるため、結局、親が迎えに行かなければならなくなると思われれます。公共交通機関以外の方法を検討されているのかお伺いしたい。

<教育長>

再編の時期ですが、現在のところ、平成33年度以降で検討させていただいております。少し時間がかかりすぎると思われれますが、様々な調整事項もあるのも事実でして、そういった中でもスピード感を持って対応をしていきたいと考えております。

<課 長>

通学のことに関しまして、バスダイヤにつきましては、資料42ページに記載させていただいて

おりますが、再編となった場合、ダイヤ改定を交通事業者と検討させていただき、ダイヤ本数についても協議させていただく中で調整をさせていただきたいと現在のところ、想定しております。

<教育長>

公共交通機関というものは別にスクールバスなどの検討についても、子どもたちの環境や市の財政的な面の問題もありますので、これから様々なご意見を頂きながら、検討をさせていただきたいと考えております。

<保護者(女性)>

一校化となった際に、残る3つの中学校の使い方について、稲梓中はかなり老朽化が進んでいると思いますが、何か検討をしていますか。先ほど、子どもがいなくなると地域が寂しくなり、みんな外に出してしまうと集まる場所がなくなってしまうと考えています。そういったことを考えますと残った中学校を利用し、人が集まるようなものを各地区に残していただいた方が良くはないかと考えておりますがいかがでしょうか。

<課長>

ただ今の質問につきましては、先日稲梓で行った市長と語る会でも同じ質問を受けました。教育委員会としましては、まず、子どもの学習環境を良くするために中学校を一校化にしようということで現在、進んでおります。また、現時点においてはどのように跡地を利用するのかということは決まっておりません。しかし、これから4年5年と時間をかけて進めていく中で、稲生沢中か下田中どちらかの場所が決定された時点で、跡地利用についても当然、検討を進めていかなければならないと考えております。

<教育長>

教育委員会としましては、まずは学校を再編する上でどんな形が良いのかというところで進めさせていただいております。当然、跡地のことも考えていかなければなりません。市長と語る会の中で、稲梓中跡地に市役所を建てれば良いというご意見をいただきました。跡地利用については、色々な検討をしなければならないと思いますが、学校再編を検討している中でそれらを併せて検討するとなると、政治的にと言いますか、天秤にかけられると言いますか、そういった状況になるのが、子どもの教育環境を良くしていこうという中で、非常に怖いと考えております。ある程度、学校再編の方向性が決定した上で、跡地利用というものを検討していくことは、十分にこちらも理解しております。

<保護者(女性)>

3点ほど、お願いがあります。1点目は、部活動に応じた通学バスの増便、また子どもに負担のない形での対応をお願いしたいです。2点目は、私たちの子どもの世代は認定こども園などで一度は市内全域の環境を経験しましたが、現在は各小学校に分かれております。そういったことを踏まえると、子どもが再び新しい地域との関わりが生じるようになるため、子どもの心の不安を少しずつ和らげるような、他校と交流する時間を多くしていただけるような配慮をお願いしたいです。3点目は、その不安からなのですが、子どもに対してのアンケートを、家族で再編について考えることができるようなアンケートを検討していただけるとありがたいと思います。

<教育長>

1点目の部活動については、各部活で時間をバラバラにするのではなく、統一した形で対応し、朝や夕方の時間を合わせるような形で検討をさせていただきたいと考えております。2点目の子どもたちの不安を取り除くような配慮についてですが、子どもたちの不安というものは、本当に色々

なことを想像していると思われませんが、実際にその中に入ってみると上手くスムーズに行くケース、あるいは逆のケースもあると思います。中学生の年代になりますと自分というものがあ程度、確立される世代になっていると自分のこれまでの経験ですが考えております。そういった中で、自分の仲間というものも自分自身で見つけることができるのではないかと感じております。このメンタルという部分につきましては、こちらとしても色々な配慮をしながら、いかに素晴らしい新中学校を築いていくのかを、子どもたちが情熱を注ぎながらそういった方向に向かっていけるような配慮をしていきたいと考えております。

<課 長>

3点目のアンケートについてですが、現在、学年が低い子どもたちが再編に該当する世代となりますので、今後、ある程度、方向性が定まってきた段階でアンケートなどを実施させていただき、家族で再編について話し合えるような機会を設けることができるようなものを検討させていただきたいと思っております。

<保護者(男性)>

少人数になることにより、再編に進むという部分につきましては、理解させていただきましたが、跡地利用の部分については、我々も地域の方などに話をする際に必ず聞かれるところになります。今日の説明会は子どもたち主体で考えられた説明会で、地域に対する、中学校がなくなることによる地域の空洞化に対する具体案が何ら示されておられません。そういった地域に対する内容の説明という部分ももう少し示していただきたい。

<教育長>

教育委員会としましても、子どもたちのこと、また地域のコミュニティのこと、当然、この2つのことは大切であると認識しております。例えば、中学校が地域とどういった交流をしているのかを考えてみますと、稲梓地区は田植え、防災、お祭りなどいろいろな関わりを持っていますが、実際は学校にいる時間というものが、一番長いと考えております。一方、小学校というのは、もっと地域との交流を行っているという認識を持っています。そういった中で、中学校を一校化した場合、地域との交流ができるかどうかという部分ですが、私はできると考えております。稲梓の子どもたちが田植えをやるということだけではなく、例えば、総合的な学習の時間の中で、海辺の子どもたちが田植えを行ったり、逆に稲梓の子どもたちが海での体験を行ったりすることができると考えております。今年から体験プログラム事業を各学校で行っておりますが、やはり山の子は米作りであったり、海の子は海の体験であったり、それぞれの地域の枠の中で事業を行っています。それが一校化することにより、プログラムがたくさんある中で山と海でたくさんの選択肢が増えます。理想と言われればその通りかもしれませんが、通学の距離もありますが、交通網は過去に比べ発達している中で「下田は一つ」であるという視点を大切にしていきたいと思っております。

<係 長>

本日は教育委員会という立場で説明会を開かせていただいております、私たちは子どもたちの教育環境の充実を第一目的として、様々な検討をさせていただいております。跡地利用については、市の全庁的な対応となってきます。当然、皆様からのご要望にお応えしながら、跡地利用というものはこれから考えていくものだとして認識しておりますが、もう少し学校の姿がはっきりとしてきた段階で、当然地域のことを考えていくべきものだと考えておりますので、どうぞご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

<保護者(男性)>

候補地についてですが、評価点で稲生沢中か下田中かという候補になったと理解しましたが、例えば、教育委員会所管である下田小などは津波浸水想定区域内にあるため、下田小を下田中の跡地に持っていくというような教育委員会としてイメージを持っていますか。仮にそれらを考慮しますと、稲生沢中の方が候補地として加点がされると思われるのですがいかがでしょうか。

<教育長>

今回の再編についての説明でございますが、あまり小学校のことが触れられておりませんでした。再編整備審議会の答申では、小学校は複式学級が出てくるまでは統廃合を考えないという内容になっております。そういった中で、今のご意見を頂いたとおり、下田小の他にも、朝日小、下田保育所が津波浸水区域になっている中で、何を最優先にするかと言われますと今の段階では、避難路を確保することを最優先に施策を進めております。しかし、これからは今頂きましたご意見のように様々なご意見を伺いながら、検討を進めていく必要があると認識をしております。

<保護者(女性)>

これから数年かけて、再編を進めていくと思われませんが、こういった説明会やアンケートについて、どれ位の回数を行っていくと想定されていますか。

<課長>

まず、説明会については、本日は稲梓中学校学区にて開催させていただいておりますが、これから、市長と語る会の開催に応じて、稲生沢中学校学区、下田東中学校学区、下田中学校学区にて必ず1回は開催させていただく予定で、その後は必要に応じて、随時開催させていただきたいと考えております。アンケートにつきましても、学校を通じて、今後実施させていただく予定となっております。いずれにしましても、皆様からのご意見を伺わせていただくことが非常に大切であると認識しております。また、別に再編検討会議も開かせていただいております。その中でもご意見を伺わせていただいております。こういった形で進めていながら、必要に応じて説明会などを開催させていただきたいと考えております。

<係長>

再編まで数年ありますが、それぞれの段階で当然協議する内容、ご意見を伺う内容が変わって参りますので、その都度、検討をさせていただき、説明会を開催するなどの対応をしていきたいと考えております。今回につきましては、総合教育会議で示しました方向性についてのご意見を伺わせていただいておりますので、それらをまとめさせていただいた後に、次のステップの内容についてのご意見を伺わせていただくという形で、段階に応じ、対応させていただきたいと考えておりますのでご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

5 閉 会

<係長>

それでは、これを持ちまして、稲梓中学校学区説明会を終了させていただきます。皆様におかれましては、お忙しい中、長時間にわたり、お疲れ様でした。